

地域の話

日立 マダイの釣果はいまいちでも初の地魚イベントは盛況

日立市の久慈漁港で9日、「震災復興 第4回日立沖真鯛釣り大会」が開催された。今回は釣り客だけでなく、一般の人々にも楽しんでもらおうと「地魚イベント」も同時開催された。会場となった漁港内魚市場では生シラスの試食販売や「ミニミニ水族館」などが行われ、カップルや親子連れなどでにぎわった。

釣り大会には県内外から約240人の太公望が参加し、21隻の釣り船で大物を狙って午前5時に出港した。11時30分過ぎに船が次々と



それぞれの釣果を熱心に見つめる参加者たち

帰港すると、釣果の計量所は活気付いた。大会実行委員長の大貫茂雄さん(58)は「今日は流れが速くて(釣果は)いまいち。一番大きいのも2kgちょっとだからね」と残念そう。とはいえ、大会も4回を数えて定着し、震災で離れていた客が戻ってきている現状を喜んでいる様子だった。

那珂市から来場した深田慶太さん(37)は釣り大会に、妻の真紀さん(37)、市立五台小学校2年生の莉緒さん、生後10カ月の愛莉ちゃん、夫の帰りを待ちながら地魚イベントを楽しんだ。慶太さんが「釣果ゼロ、坊主でした」と笑って戻ってくると、一家は仲良く網焼きコーナーへと向かって行った=写真。



大子 奥久慈しゃもとワインの相性は抜群 11月のイベントに先駆け、試食会で確認

ボージョレ・ヌーボーの解禁に合わせて大子の夜を名物の奥久慈しゃもの料理とワインで盛り上げようと、地元の飲食店有志らが11月24日にワインの講演会と飲み歩きイベント「第1回だいいごお酒のイロハ」を開く。これに先駆けて10月13



ワインと料理のマッチングを身振り手振りを交えて伝えるシニアソムリエの植田さん(左)と、料理の余韻とワインの味を神妙な表情で確かめる実行委員会の高安正博さん

日、シニアソムリエを招いてイベント用創作料理の試食会が大子町内の飲食店で開かれた。会場の店には、イベントに参加する11店の店主らの奥久慈しゃもを生かした様々な料理が並べられた。事前にレシピをもらっていた日本ソムリエ協会茨城支部長のシ

ニアソムリエ・植田真未さんは、各料理に合うワインを選んできたが、「しゃも肉はどの部位も力強い。いただいてみたら、もっと違うマッチングがひらめきました。楽しくなってきました」とワインを次々に試飲していく。

イベントを後援している奥久慈しゃも生産組合の益子実津雄組合長は、こんなしゃも料理は見たことも食べたこともないと驚きつつも、「地元での消費も増えていけば」と期待を寄せる。発起人の小林太郎さんは、「家業はそば屋ですが、自宅ではイタリア料理を作ってワインを飲んでます。しゃもは絶対にワインに合うので、この機会に是非多くの人に味わってもらいたい」と話す。

同イベントは11月24日午後6時から、JR常陸大子駅周辺で開催。詳



神栖 天然温泉「美人の湯 ゆの華」で入場250万人達成

神栖市の鹿島セントラル天然温泉「美人の湯 ゆの華」で5日、02年の開業から入場者が250万人に達し、記念式典が行われた。



250万人目となったのは、午後1時過ぎに来場した鹿嶋市の鈴木美津子さん(64)で、同

待券などが贈呈された。

月に5回は利用しているという鈴木さんは、大好きなサウナに入り、同館でゆったり2時間を過ごしながら気持ちをリフレッシュしている。「まさか自分が250万人目になるなんてびっくり」と笑顔を見せた。

加藤店長は、当初の予想より早く250万人を達成したと語る。「天然温泉ならではの泉質の良さはもちろん、お客様に快適に過